

出雲大社への大しめ縄奉納を前に

飯南町注連縄企業組合

石橋 真治さん

しめ縄作業の昔と今は

前回より姿の美しいものを作り上げたいと思っているが、なかなか難しい。

私が携わったのは2本目からで、これが6本目になる。その頃は今のようになるとは思ってもいなかった。場所も琴引荘の裏にある建物で、蒲生を広げるスペースもないところで、1日仕事で燃り合わせていた。今と違って見に来る人もなく、静かに作業していた。

運営状態は

組合員は20人だが、常時かわつている人は10人くらいだ。いつも5人くらいがここで制作に携わっている。



棟梁の石橋さん

大しめ縄の制作は、月に2本くらいが限界なので、来年まで待つてもらうこともしばしばだ。県外からわざわざ見に来て、発注して帰るお客様もある。

北は山形県天童市の緑の迎賓館にある出雲大社分院や、南は長崎県の神社と、宮崎県の霧島酒造に納めている。霧島酒造では新しい蔵を建てたので、そこへ飾りたいと社長ほか数人が来られた。

大しめ縄の需要は、制作能力を越えている状態だ。

今後の課題は

後継者の育成をしなくてはならない。知っていることはすべて伝承しなければならぬ。体で覚えるまで数を作らなければならない。

次の出雲大社への奉納は7年後だが、それまでに育て上げたいと思っている。

大しめ縄に携わって思うことは

大しめ縄に携わったことで様々な人との出会いをいただいたこと。ここを訪れてくださった何万人ものお客さんと交流することができたこと。

納品したしめ縄を見た人から、驚きと喜びの声を頂いたとき、なんともいえない達成感を味わうことができる。

このような機会を与えてくださった町民の皆さんに感謝している。さらに出来映えの良いしめ縄を作れるように、精進していきたい。



「しめの子」の仕上げを入念にチェック

今月、出雲大社神楽殿に奉納された大しめ縄を、魂を入れて制作されています。束ねた藁を3本、7本と締め上げながら、最終的には150本を使用し、直径1.2メートル、長さ17メートル、重さ1.7トンにもなる中芯なかじんを作成し、その上に粗蒲生あらごも、上蒲生うわごもを巻き、より合わせて完成するのです。「今年は、最も太くなる箇所を前回よりも端に寄せてみた」と、好きなお酒を断つても、大しめ縄づくりに取り組む棟梁の石橋さんの言葉からは、強い思いと熱意が伝わってきます。

編集後記

4月9日の深夜、三瓶山付近を震源とする地震が発生しました。被災された皆さんにお見舞いを申し上げます。今定例会の一般質問には4人が登壇し、そのうち3人が地震の被害や対応について町長に質しました。

災害はいつやってくるかわからず、常日ごろより万全を尽くしておかねばならぬものです。しかし、口で言うほど容易なものでなく、時がたてば意識の中から消えていくものです。

このたびの経験を生かし、行政も住民も、今一度災害時における取るべき行動を共に話し合ってみる必要があると感じました。

2011年3月12日、長野県栄村は震度6の地震に襲われ、家屋の全壊33棟、半壊169棟、一部損壊486棟の被害を受けながら、死者3人、軽傷者10人でした。この村では、災害時における助け合い、安否確認の仕組みが確立されていたため、人的被害を最小限にとどめることが出来たということです。このたびの災害を、地域の中で助け合いの仕組みを話し合うきっかけにしたいものです。

議会広報編集委員会 門 真一郎